

《 平成 29 年度収蔵文書の紹介 》

広島市の歴史的風景

— 文書館収蔵の絵はがきから —



大手町通の絵はがき（大正期頃）

左端には、大正4年（1915）に建設された広島県物産陳列館（のち広島県産業奨励館〈現・原爆ドーム〉）、右端に広島城天守閣が見える。

広島県立文書館では、戦前の広島県内の様子を写した絵はがきを約二五〇〇点収蔵しています。絵はがきの流行は、日露戦争後に本格的に始まり、明治末から昭和のはじめにかけて、大量に発行されました。これらの絵はがきは、当時の観光みやげとして、また、行事や施設の記念品などの形で流布したのですが、今日では、写真撮影が一般に普及していなかった時代の貴重な画像資料となっています。また、文献・文字資料では分からない、風景の移り変わりや、建物・街の経年変化を知ることができ、歴史資料としても有用な情報を提供してくれます。

この展示では、文書館が収蔵する絵はがきの中から、広島市内の様子を写したものを中心に紹介し、現状と比較することで、そこに写された歴史的風景と絵はがきの資料的意義について考えてみることにします。

広島市の歴史的風景 — 絵はがきと現状との比較 —

市街地



現状

明治末期（1910年頃）の大手町通

（大手町四丁目，現・大手町二丁目 11番付近） 左側にある3階建の建物は広島県農工銀行。中央右に見える洋風の塔は日本火災広島支店。この通りの突き当たりには、広島戦捷記念碑（西練兵場内）が、通りから見通せるように設置されていた。



現状



現状

①

②

横町，広島郵便局前

①東横町（現・紙屋町二丁目〈本通四丁目〉）

②西横町（現・紙屋町二丁目〈本通五丁目〉）

広島新天地

新天地は、大正10年（1921）に堀川町の広島中央勸商場跡にできた繁華街。昭和2年には東新天地ができて東西2か所となった。劇場・寄席・活動写真館（昭和10年代以降は映画館と称される）、喫茶店・カフェなどが広島で最も多く集まり、盛り場として賑わった。

新天地の絵葉書は当時数多く売り出されている。それまでの盛り場（勸工場・勸商場などと呼ばれた）は、いくつかの遊戯場に小規模な店が軒を連ねる程度であり、大正期になって次第に活力を失っていった。新天地は、多くの新しい娯楽施設が密集し、また市内ではじめての喫茶店ができるなど、八丁堀付近（千日前）と共に、新たな盛り場の姿を印象づけた。



日進館

新天地開場とともに設けられた洋画専門館。開館間もない大正末頃の絵葉書。音楽部も有名で、外国人楽士を交えた演奏が行われた。垂れ幕の「サーカス王」は1920年のアメリカ映画で、連続活劇王エディー・ポーロの作品。

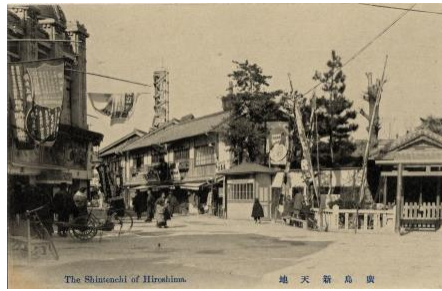


新天地映画倶楽部（泰平館）

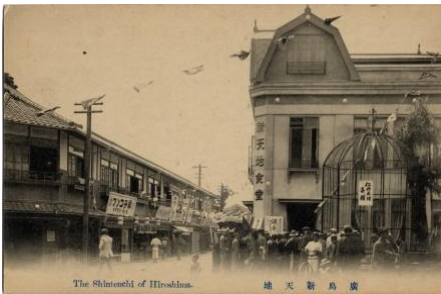
新天地東入口側から西方向を見たところ。もとは、青い鳥歌劇団の上演場として設けられたオペラハウス。同劇団が解散したのち映画館となった。



新天地内にあった紅桃花稻荷大明神



新天地商店街の商売繁盛の守護神として、泰平館の東側に、大正9年（1920）に造営された。被爆時に御神体は疎開していたため難を免れたという。現在、流川町東新天地駐輪場上の公園に再興されている。

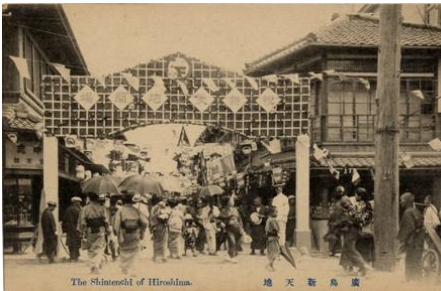


新天地食堂



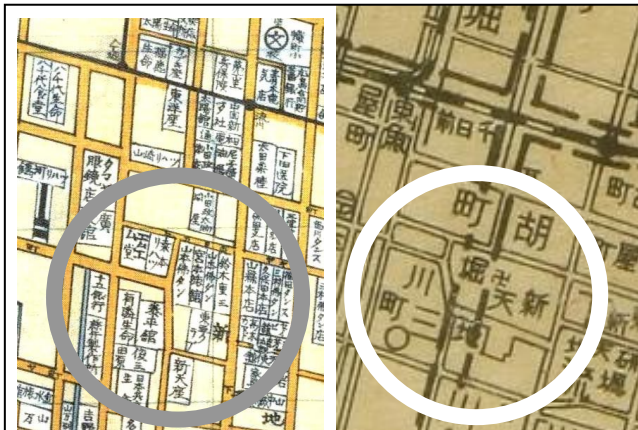
劇場・新天座（右）と日進館（左奥）

映画倶楽部（泰平館）の館内から見た風景と思われる。日進館は、無声映画時代は盛況であったが、その後発声映画（トーキー）が現れると衰退し、漫才小屋となった。



←新天地西入口

大正10年（1921）新天地開場当時の賑わいを写す。入口左は化粧品店の「中忠」。右は時計店の「黄金屋」。



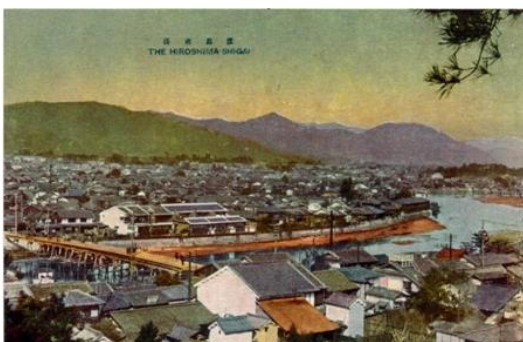
【参考】

戦前（左：昭和4年）と終戦直後（右：昭和21年）の新天地付近

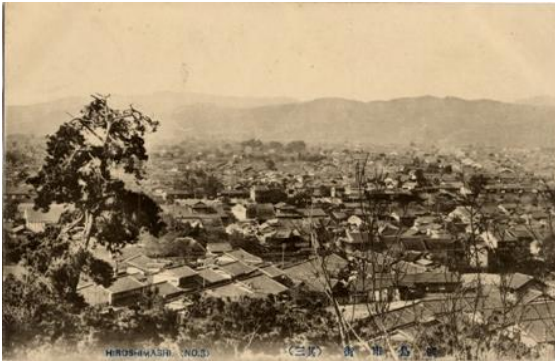
かつて新天座があった辺りに、現在の中央通りが敷かれた様子が分かる（○囲い部分）。なお、地図上の八丁堀電停は、現在の八丁堀電停より1つ西側の筋にあった。

（昭和4年『大日本営業別住所入明細図之内 広島県之内 広島市』／昭和21年12月『広島復興都市計画街路網・公園配置図』長船友則氏収集資料 200407-872）

比治山から見た市街地



比治山から北西方面の市街地を望んだ風景。現在は、比治山公園入口付近から僅かに北西方面を望むことができる。



現状

比治山から西の市街地を望んだ風景。現在は、広島市現代美術館の西側から僅かに望むことができるが、ふもとの市街地は樹木に遮られて見ることができない。

宇品海岸通・御幸通



現状



現状



戦前の宇品海岸通（東方向を望んだところ）と現状（宇品海岸二丁目）

戦前の宇品海岸通（大正5年）と現状（宇品海岸二丁目）



現状



①

戦前の宇品御幸通一丁目と現状（宇品海岸二丁目，御幸松バス停付近）



②

御幸通は宇品町の字名で、当時は海岸寄りの一丁目から、通り沿いに北へ十七丁目までであった。①は明治末期頃の絵はがき。②は昭和8年の絵はがき。いずれも宇品海岸側から北を望んで撮ったもの。②の左側に見えるのぼりに書かれた「永田節男」とは、宇品出身の大相撲力士、安芸ノ海節男（1914 - 1979）のこと。安芸ノ海の実家は、宇品御幸通で食料品店を営んでいた。

河川と橋 太田川（本川）の風景



現状



明治末～大正初期頃の太田川河口付近の風景

後方に宮島の弥山が見え、手前には帆を閉じた木造和船が並んで停泊している。現在は、広島南道路（現状写真は建設中のもの）が中央を走っている。

大正期頃の太田川下流の風景

住吉神社の松並木付近から北方向を撮ったもの。手前側に松の枝が大きく張り出している。現在は、住吉橋の北側に国道2号線の新住吉橋が架かっており、背景の山の形から、新住吉橋の北側地点より撮影したものと推定される。



昭和戦前期の太田川下流の風景

昭和17年(1942)陸軍運輸部検閲済の絵はがき。現在の大芝公園付近の河川敷で撮影したもの。後方に阿武山が見える。

住吉の浜

太田川(本川)河畔の住吉の浜。松並木の奥に住吉神社があり、その左手後方には木造の大型帆船が帆を閉じて数多く停泊している。明治末期かそれ以前の撮影と思われる。



←大正期頃の元安川下流の賑わい

絵はがきには「太田川」とあるが、元安橋の橋上から南側を撮影したもの。後方に見える洋風の塔は日本火災広島支店、その右側の大きな建物は不動貯蓄銀行で、いずれも大手町筋沿いにあった。多数の川舟が通行し、また川岸には家屋が密集しており、川が生活の場となっていた様子がうかがえる。



元安川での夏の川遊びの風景

大正期頃の絵はがき。当時広島市の川は水がきれいで、子供たちの格好の遊び場であった。広島市公認の水泳場もあり、潮が引くと潮干狩りや河原ベースと呼ばれる野球も行われた。木造の小船も通る中、大勢の子供たちが水遊びに興じている。現在の平和大橋西詰辺りから北側を見た風景。



京橋（南区京橋町～中区橋本町）

京橋は、天正 19 年（1591）、毛利輝元の広島入城の年に木造橋として架橋された。西国街道の基幹橋の一つで、京へ続く橋として「京橋」と名づけられた。かつては西国街道を猿猴橋・京橋を渡って西へ行くと、広島城下の盛り場へつながっていた。昭和 2 年（1927）8 月に鋼橋となった京橋は、その後原爆の爆風にも耐えた。



とぎわ 常盤橋（南区大須賀町～中区東白島町）

常盤橋は、明治 12 年（1879）に木造橋として京橋川に架橋された（左、明治末期頃）。江戸時代には橋梁の建設は制限されていたが、明治になって解禁となり、もともと渡し場であった位置にこの橋が架けられた。昭和 3 年（1928）6 月、水害により流出し、翌年鉄筋コンクリート製の橋に架け替えられた（右、昭和初期）。新しい橋には鉄製の高欄が取り付けられていたが、太平洋戦争による金属供出で取り外され、石製の高欄に付け替えられた。後方に見える山は二葉山で、現在は、その前を新幹線の高架橋が通っている。



柳橋（南区金屋町～中区銀山町）

明治 11 年（1878）、地元住民によって架けられた木造橋。江戸時代は藩の規制により、京橋川に架かる橋は京橋だけであった。左側に橋の名の由来となった柳の木が見える。昭和戦前期頃のもの。

えんこう 猿猴橋

（南区猿猴橋町～南区的場町一丁目）

毛利氏時代の「芸州広島城町割之図」にも描かれている、西国街道の要衝に架かる橋。

「猿猴」とは、広島県や中四国地方に伝わるサルに似た河童のような怪物のこと。洪水のたびに人々を川に引きずり込む「猿猴」が棲むとされたのが、その名の由来。①②は大正末期まで架かっていた橋。現在の猿猴橋は大正 15 年（1926）2 月に架橋されたが、落成当時は、③に見られるように、親柱には地球儀の上ではばたく鷺の像が据えられ、束柱には豪華な電飾灯が付けられていた。また、欄干には、2 匹の猿猴が両側から桃を抱えている鋳物の透かし彫りが施されていた。これらの装飾品は、戦時中の金属回収令で供出されたが、平成 28 年 3 月に復元された。橋そのものは、原爆の爆風にも耐えて現存している。

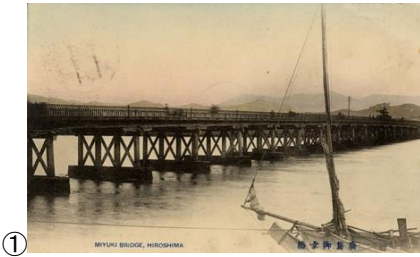


鶴見橋から比治山公園遠望

山上に、明治 42 年（1909）に比治山へ移築された旧御便殿（明治天皇の御休憩所）が見える。比治山はもと国有林であったが、明治 31 年（1908）より広島市が公園として整備した。水が引いた京橋川で子供たちが遊ぶ明治末期頃の風景。現在は緑地帯となっている川沿いも、当時は建物が密集していた。



現状



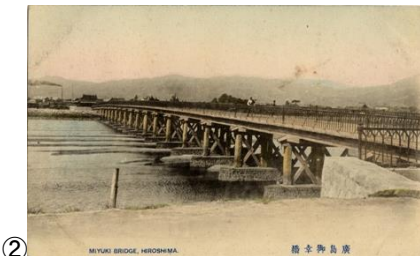
①



③



現状



②



④



現状

御幸橋（南区皆実町～中区千田町）

明治 18 年（1885）、宇品築港事業に伴って架橋されたという。長さ 140 間（約 255m）と広島市内で最も長い木造橋であったため、「長橋」と呼ばれたが、同年 8 月、明治天皇の広島行幸を機に「御幸橋」と改称された。

大正元年（1912）に路面電車が開通した際、橋に軌道を通すことができなかつたため、当初は橋の西詰で電車からいったん降りて徒歩で橋を渡り、東詰の電停から宇品行きに乗り換えていた。その後、電車専用鉄橋が、道路橋の北側に併設され、路面電車は宇品まで直通となった。①②は、電車鉄橋が併設される以前の大正期頃の御幸橋。更に昭和 6 年（1931）5 月、道路・軌道併用橋が完成した（③④）。現在の橋は 3 代目で、平成 2 年（1990）に竣工した。

元安橋（中区大手町～中区中島町）

元安橋は、山陽道沿いの要衝の橋として、すでに毛利氏時代から木橋が存在し、明治期以降も中島地区と本通をつなぐ橋として重要な役割を果たしてきた。大正末期までは木橋であり、大正 8 年（1919）の水害で倒壊するなどの被害も受けたが、同 15 年に、^{こうはんけた}鋼板桁の永久橋に架け替えられた。東西両詰の親柱には球体が、その間には照明灯が据えられて、広島県立商品陳列所（昭和 8 年からは広島県産業奨励館）付近のモダンな景観を引き立たせていた。これらの装飾品は、猿猴橋の場合と同様に、戦時中の金属回収令により供出され、親柱の上は石の点灯箱に替えられた。現在の元安橋は、被爆した親柱 6 本を使用して、平成 4 年（1992）に竣工当時の姿を再現して架け替えられたもの。親柱は、もとは 8 本あったが、使用されなかつた残りの 2 本は、現在の元安橋東詰の南側に安置されている。



現状

元安橋（南東から）



元安橋（東から）



現状



元安橋（南西から）



現状



本川橋（中区中島町～中区堺町）

本川橋は、毛利氏が広島城下を整備した際に、広島商人猫屋九郎右衛門が建設した。明治20年代頃までは「猫屋橋」、本川を「猫屋川」と称していた。西国街道の基幹的な橋であり、江戸時代には本川唯一の橋であった。当時この橋一帯は、江波港から川を遡上してくる積荷の荷揚場として栄え、橋の西側街道筋に開けた堺町は、問屋街を形成して賑わっていた。明治30年（1897）に木造橋からアーチ型の鋼製トラス橋に架け替えられたが、これは広島初の鋼橋であったため名所となり、橋のもとでは本川饅頭が売られた。かつては問屋街の倉庫群が建ち並び、広島における商業の中心地であった。原爆により落橋し、翌月の枕崎台風で完全に橋脚のみとなった。昭和24年（1959）に古い材料を再利用して再びトラス橋として架け直され、現在に至っている。



元安橋西詰（アサヒ軒前）



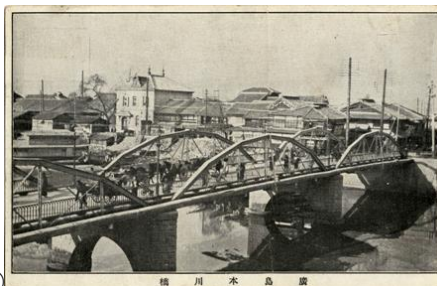
現状



本川橋（南東から）



現状



①



②

本川橋（北東から） ①は明治末期頃の様子。②は大正期頃のもので、対岸の橋詰にあった広島商業銀行本店が、木造の建物から大きなレンガ造の建物に変わっている。このレンガ造の店舗は、大正2年（1913）12月に新築され、のちに、芸備銀行塚本町支店となった。

現状





現状

住吉橋

(中区住吉町～中区舟入町)

明治43年(1910),両川岸住民によって架けられた橋。西詰から住吉神社の方向を望んだ大正期頃の風景。対岸に、住吉神社の松並木が見える。木造の住吉橋は、水害により

何度も落橋し、大正15年(1926)に鉄筋コンクリート橋に架け替えられた。原爆では、欄干の一部が破損しただけであったが、その後10月の水害で落橋した。現在の鋼アーチ橋は、昭和29年(1954)に架け替えられたもの。

名所・旧跡 等

だいほんえい 広島大本営

明治27年(1894)に勃発した日清戦争を指揮するため、広島城内に置かれた最高統帥機関。木造2階の洋館は、元は明治10年(1877)に広島鎮台司令部として建てられ、同21年から第五師団司令部として使用されたが、27年9月15日、戦争指揮のため明治天皇の御座所となった。同29年に大本営が解散となった後は文化財として保存され、大正15年(1926)10月には、史跡名勝天然記念物保存法により、史跡に指定された。昭和3年(1928)には広島城天守閣の一般開放も始まり、観光名所にもなったが、原爆により焼失した。



現状



現状

しょうけんこうたいごうござしよ 昭憲皇太后御座所

もとは第五師団監督部の建物であったが、大本営が広島城内に移ってからは、大本営の事務所として使用され、参謀総長をはじめとする幕僚、各機関の高等部がここに置かれていた。明治28年(1895)3月19日に昭憲皇太后(明治天皇皇后)が広島に到着の後は、皇太后の御座所として使用された。



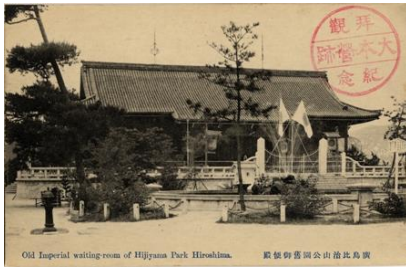
現状

大本営跡前の噴水池

軍用水道の布設に合わせて、大本営前に明治31年(1898)に築造された池。池の中央にある築山が噴水になっていた。大正14年(1925)に「桜の池」と命名された。現在も広島城本丸内に遺構が残るが、池としての機能は失われている。

大本營の金屏風

大本營は木造2階建てで、1階には皇族大臣室や侍従職室などの部屋があり、2階には御座所のほか、御召替所、侍従長室、軍議室などがあった。御座所に置かれた金屏風 (①) は、日清戦争後は旧大本營内で保存されていたが、第二次世界大戦中は、広島市青崎国民学校 (現 広島市立青崎小学校) に疎開されていたため、原爆の被害を免れ、その後広島県が保管してきた。現在、当館が収蔵している (②)。



比治山旧御便殿

日清戦争の勃発により、広島で臨時帝国議会を開院することとなり、西練兵場内に仮議事堂が建設された。その際、天皇の行在所として設けられたのが御便殿。臨時帝国議会の仮議事堂は明治31年(1898)に解体されたが、御便殿については広島市が貰い受け、比治山の北端に移築した。



旧御便殿の大鳥居と石燈籠

旧御便殿の前には、銅版で巻かれた大鳥居が設けられていた。また、その両脇には、明治43年(1910)に発足した帝国在郷軍人会の広島市聯合分会が寄進した石燈籠2基が置かれた。原爆により、御便殿の建物は焼失。現在は、2基の石燈籠が比治山公園内の片隅に残されている。



比治山公園

御便殿が移築された比治山公園は、戦前から桜の季節には花見客で賑わった。公園入口の両脇には、昭和天皇の皇位継承を記念して昭和3年(1928)11月10日に建立された御大典記念碑が建つ。現在も公園入口にこの記念碑が残っており (現状写真を参照)、戦前の絵はがきと見比べると、記念碑と旧御便殿前にあった2基の石燈籠は、元あった場所に現存していることが分かる。2本の記念碑に刻まれた文字「與天地其徳」・「與日月合其明」は、易経の中の一節「(それ大人は) 天地とその徳を合し、日月とその明を合す」である。

安国寺不動院

安芸国の守護武田氏の菩提寺として繁栄した寺院。大永年間（1521～27）に、武田氏と大内氏の戦いにより伽藍が焼け落ちたが、毛利氏の外交僧で豊臣秀吉の直臣として知られる安国寺恵瓊により再興された。福島正則の時代に寺院全体を不動院と称するようになり、その後も広島藩主浅野家の保護を受けた。

原爆投下時も、地理的条件が幸いして被災を免れた。国宝の金堂、重要文化財の楼門・鐘楼など、多くの文化財が現存し、絵はがきと同様の姿を今も見ることができる。



現状



広島国泰寺

文禄3年（1594）に安国寺恵瓊が、臨済宗の寺院「安国寺」として創建。関ヶ原の戦いで恵瓊が刑死した後、広島に入封した福島正則の弟普照が入寺し、曹洞宗の「国泰寺」と改められた。現在の中区中町、ANAクラウンプラザホテルが建つ場所に国泰寺があった。ホテル正面に残る愛宕池跡は寺の遺構であり、かつてはこの付近が海岸線であった。

現状



広島別院

浄土真宗本願寺派の寺院で、安芸門徒の活動の中心寺院。長禄3年（1459）安芸武田氏によって武田山の山麓に建立された仏護寺が前身。慶長14年（1609）、福島正則によって現在の寺町へ移転した。明治9年（1876）から2年間は、ここに仮の広島県庁舎が置かれたこともあった。

原爆により壊滅したが、昭和39年（1964）10月に本堂が再建され、平成6年（1994）には、本堂を中心に大規模な修繕工事が行われた。

現状



みょうじょういん

明星院 仁王門

饒津神社の東隣に位置する真言宗寺院。毛利輝元の母妙寿院の位牌所である妙寿寺（臨済宗）であったが、毛利氏の防長二州への移封後、福島正則により真言宗・明星院と改められた。天保6年（1835）には、9代藩主浅野斉肃が敷地の西半分に饒津神社を建立した。原爆により殆どが焼失したが、義士堂と絵はがきに写る仁王門は倒壊したのみで焼失を免れた。

絵はがきは、本堂側から見た戦前の仁王門。もとは、絵はがきに見えるように二層門であったが、戦後は一層部分が二つに分離した形で残されていた。現在は一層門に修築され、場所も本堂寄りに移されている。現状写真の中央が現在の仁王門で、その奥が本堂。元は、手前に見える礎石の位置に仁王門があった。



現状



つるはね
鶴羽根神社

明星院の東隣に位置する鎌倉時代初期（12世紀末）創建の古社。当初は椎の木八幡宮と称し、広島東部の総氏神として崇拝されていた。明治元年（1868）、神仏分離令に基づき、12代藩主浅野長勲^{ながこと}によって鶴羽根八幡宮と改称、同5年に鶴羽根神社と改められた。原爆により社殿は全焼し、鳥居や燈籠、太鼓橋などの石造物だけが残った。絵はがきには「饒津公園燕子花」と記されているが、鶴羽根神社の太鼓橋辺りを撮ったもの。



にぎつ
饒津神社

宝永3年（1706）に4代藩主浅野綱長^{つななが}が、広島城鬼門^{きもん}の方角に浅野氏の初代浅野長政の位牌堂を建立したのが始まり。天保6年（1835）に9代藩主浅野斉肃^{なりたか}が長政を祭神とする社殿を明星院の西側（現在の饒津神社の場所）に建立し、二葉御社と称した。その後、明治6年（1873）に饒津神社と改称した。原爆では、石燈籠や手水桶などの石造物を残して壊滅的な被害を受けた。戦後、本殿や仮殿が再建されたが、昭和59年（1984）6月に本殿・拝殿^{みづがき}・瑞垣^{からもん}が戦前の姿に復元された。また、平成12年（2000）に唐門が、同17年には唐門前の木製の鳥居が当時の姿に再建された。①は拝殿、②は唐門（向唐門）、③は唐門前の鳥居。いずれも当時の姿に復元されている。④は鳥居前の参道に並ぶ石燈籠。



広島東照宮

広島東照宮は、慶安元年（1648）、広島藩2代目藩主浅野光晟^{みつあきら}によって創建された。徳川家康の外孫（生母振姫は家康の三女）であった関係から、光晟は藩内での東照宮造営に熱心であり、京都から多くの職人を招いて社殿を完成させた。

原爆により、本殿や拝殿などは倒壊・焼失したが、唐門^{よくろう}、翼廊、御伴所などは焼失を免れ、広島市の重要有形文化財に指定された。焼失した社殿は昭和40年（1965）に再建され、同59年には本殿、幣殿^{へいでん}、拝殿が建て替えられた。





広島東照宮の桜並木

かつて広島東照宮の前には、約500mほどの桜並木があり、戦前の絵はがきにその風景が紹介されていた。この桜並木は江戸時代から存在し、参勤交代の際には大名がこの並木を通して参拝したというが、原

爆により焼失。かつての並木道は鳥居からまっすぐ直線に伸びていたが、現在の道路は、当時とは方向が変わっている。

がいせん 宇品凱旋記念碑

日清戦後の広島第五師団・第九旅団の凱旋を記念し、中国地方有志の寄付により、明治29年(1896)に広島市皆実(現 南区皆実町六丁目)に建立された。絵はがきは大正前期頃の様子。碑が建立された場所は、御幸橋を渡っ



て広島市中心部へ行く道と、比治山下を通過して広島駅に行く道との分岐点にあたり、見通しの良い場所にそびえていた。この碑は、戦後「凱旋碑」の文字が「平和塔」に改められて、現在も残っているが、建立当時とは周囲の風景が大きく変わっている。



天城旅館(天神町)

明治7年(1874)に旧天神町北組(現在の広島平和記念資料館東館の北東)に創業した旅館。元安川に面した1000坪以上の敷地に木造3階建て(地下1階)の壮大な建物を擁していた。原爆により焼失。被爆前は軍用旅館であっ



北京料理料亭・香蘭

昭和戦前期に広島別院の東隣にあった料亭。背後に広島別院の大屋根がかすかに写っている。手前の川は太田川。

海と港

宇品港

明治22年(1889)に、^{せんださだあき} 県令千田貞暁の推進によって築港された。明治初頭まで、広島市には本格的な外港がなく、海上交通に不便を来していたが、明治11年頃から^{しぞくじゆきん} 土族授産との兼ね合いで宇品築港の機運が高まり、同17年から5年余を費やして完成した。

宇品港は、完成当初はあまり振るわなかったが、日清戦争前後から軍都広島軍用港として活用されはじめ、その後も日本で最も重要な軍用港として、また広島海の玄関として重要な役割を担っていった。当時の宇品港は、現在の広島港旅客ターミナルのある場所とは、元宇品を挟んで反対側(元宇品の東側)にあった。



現状



現状



①

②

①「明治三十七八年戦役海軍記念日」のスタンプが押された明治39年（1906）5月27日付の絵はがき。大型汽船に混じって木造和船や舢艫が行き交う当時の活況が窺える。

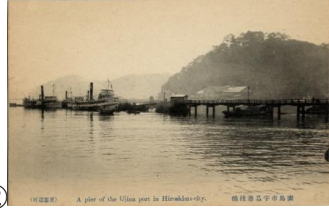
②明治41年（1908）10月要塞司令部認可済の絵はがき。



現状



①



現状



②



現状



③

宇品港市営棧橋

①② 汽船が停泊する大正期頃の宇品港市営棧橋を写した絵はがき。右手に見えるのが元宇品。現在は、写真後方にグランドプリンスホテルが建つ。

③ 元宇品側から宇品港を北に向かって写した絵はがき。中央に見える木造2階建の洋風建築物は明治42年（1909）竣工の広島水上警察署。この建物は現在も残り、戦後も警察の建物として利用された。現在は、広島県広島港湾振興事務所が管理している（現状写真の中央左寄りに見える）。

現在も残り、戦後も警察の建物として利用された。現在は、広島県広島港湾振興事務所が管理している（現状写真の中央左寄りに見える）。



現状



← 江波港

江波は江戸時代、広島城下の外港として栄えた半農半漁の集落であった。幕末には横浜・神戸などのように貿易港にする案もあったが、版籍奉還により白紙となり、その後明治22年（1889）の宇品築港により、外港の地位も宇品に譲る形となった。

絵はがきは明治末期頃の船卸式の様子を写したもので、海岸に面して林立する集落が見える。後方の小山は丸子山不動院。



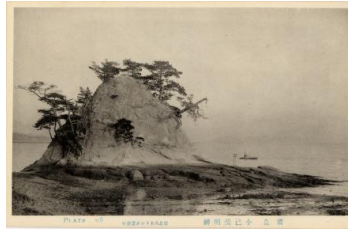
現状



↑ 江波公園（鶯の崎）

江波山は、かつては皿山と共に瀬戸内海の小島（江波島）であったが、明治期になって干拓で陸続きとなり、広島市の公園となった。戦前までは、江波山の南側は瀬戸内海に面しており、絵はがきのような風景が見られた。

絵はがきは、大正初期頃の江波山を南側から見たもの。江波山の西端は鶯の崎と呼ばれ、かつてはたくさんの鶯が飛来した。現在、鶯の崎から南は埋立地が広がり、その先に似島や瀬戸内の海を望むことができる。



いのち ことい
井口・小己斐明神

絵はがきは明治末期頃の井口海岸。小己斐明神の岩礁が海辺に浮かぶ美しい海岸風景を見せていた。白砂青松の景勝地として知られていたが、西部開発による埋立てで、この辺りの風景は一変した。小己斐明神の岩礁は現在、広島電鉄宮島線井口駅近く、井口明神西部埋立第二公園内に残されている。小己斐明神は波による浸食を受けた波食崖であり、かつては海に浮かぶ小島であったことがよく窺える。



現状



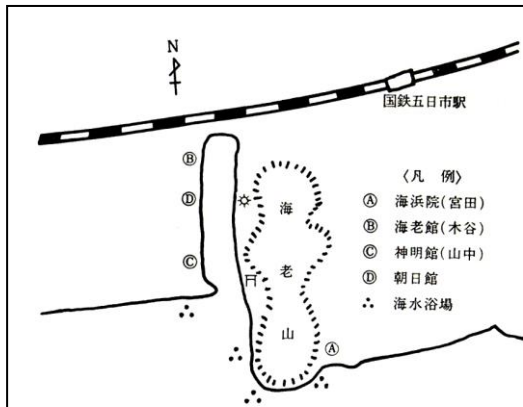
現状



五日市海水浴場

海老山周辺に明治30年(1897)前後頃に開設され、県内最古の歴史を有する海水浴場と謳われた。海老山東側の海浜院(宮田旅館)は山陽鉄道開通後、潮湯・むし風呂を開設し、県内の山間部方面からも来客があった。また、明治38・39年頃日露戦争で負傷した傷病兵用の潮湯として朝日館も開設された。

昭和10年(1935)10月に楽々園が開設されると次第に衰退していった。現在これらの場所は埋立てられ、海水浴場の面影はない。



【参考】五日市・海老山周辺地図
明治45年頃(『五日市町誌』中巻252頁)



五日市港航空写真
海老山(写真右側)の左隣に写る入江は、現在埋立てられている。

廿日市海岸(住吉神社)

廿日市港から南方向を望んだ風景。正面に住吉神社の鳥居が見える。現在の住吉神社は、昭和58年(1983)の県道拡幅工事のため場所が移転している。また、港の沖合いには埋立地が広がっており、この絵はがきの風景も現在は大きく変わっている。



現状

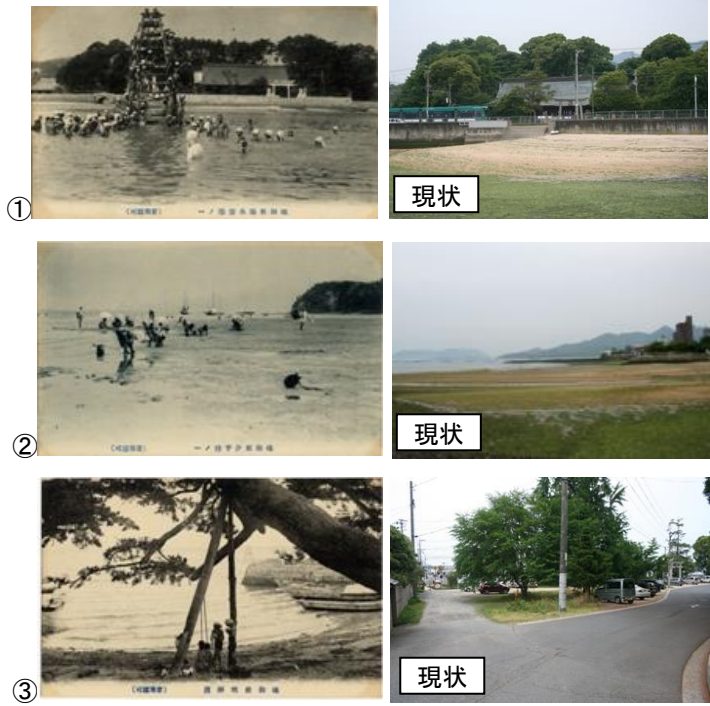


じごぜん

地御前海水浴場（地御前神社・明神浜）

大正 14 年（1925）7 月，広島電鉄宮島線の終点として地御前駅が開業し，地御前海岸は広島郊外の海水浴場として賑わいを見せるようになった。

- ①地御前神社前の海水浴場の様子。
- ②海水浴場内での潮干狩りの様子。
- ③地御前神社の北側，地御前明神浜の様子（①の右端の場所）。絵はがき右側に見える石垣が地御前神社の石垣。現在，この辺りは埋立てられている。



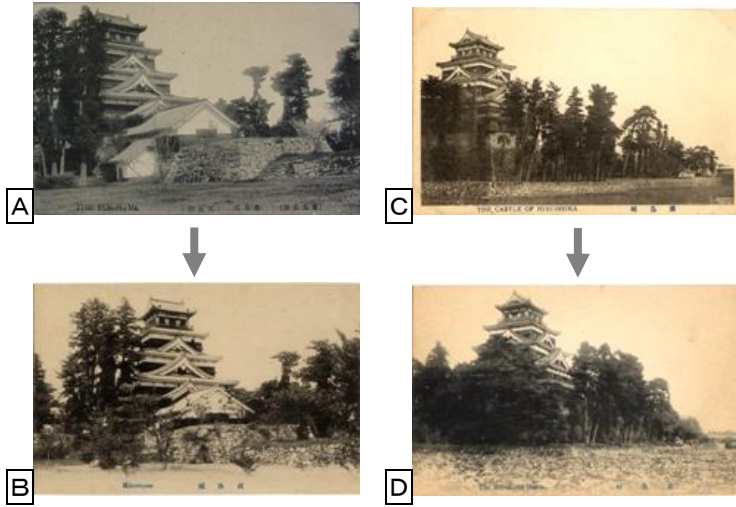
ほたて 阿品・火立岩

広島電鉄宮島線阿品東駅より北へ 200m の地点にあった岩。もとは海岸より数m離れた地点にある小島であったが，道路整備に際して陸続きとなり，電車軌道がすぐそばを走っていた。弘治元年（1555）の厳島合戦の際，毛利軍が発船した地とされ，また，厳島神社の管絃船がこの岩の辺りで灯火を点じるのを古例としたことからこの名が付いたとされる。

昭和 43 年（1968）に西広島バイパスの道路用地を確保するため，消滅した。

時の経過を写す絵はがき

広島城の堀と木



戦前の広島城天守閣

戦前の広島城天守閣は，現在とは異なり，大天守閣の南東隣に杉の巨木がそびえていた。また，広島城の本丸は，第五師団司令部，広島大本営が置かれていたことから，天守閣の南東側（大本営との間）の敷地は樹木が少なく，天守閣の前が開けていたことが分かる。大本営が史跡指定される頃には，草木も繁茂し始めたと考えられ，A と B を比べても，東小天守台周辺で，草木の生育が進んでいる様子が窺える。C と D も同方向から撮影しているため，年代による変化が比較できる。C に比べて D は杉などの樹木の生育が大きく進み，堀もハスの葉で覆い尽くされていることが分かる。各種観光案内書に掲載された写真と照合すると，A・B は明治 30～40 年代頃，C・D は大正～昭和戦前期のものと推定される。



E



F



←現在の広島城

(絵はがきと同地点からの撮影)

東小天守台周辺は、現在では樹木が生い茂り、前頁A・Bと同地点からは天守閣を撮ることができない。EはA・Bと同地点から撮ったもの。FはC・Dとほぼ同地点から撮ったもの。天守閣南側にあった杉の巨木が無くなり、堀を埋め尽くしたハスの群生も無いため、戦前の風景とは異なる印象を受けるが、本丸内は樹木が繁茂している。

広島城天守閣周辺

旧大本営の建物があつた戦前は、天守閣前に開けた敷地があり、また、堀がハスの葉で埋め尽くされている様子が分かる。原爆により、天守閣とともにハスの葉も消滅。現在の広島城は、堀にハスの葉の群生は見られないが、本丸は生育した樹木で覆われている。

あいおい

相生橋の変遷

相生橋は市内有志によって明治11年(1878)7月に落成・開通した。当初は、中島の慈仙寺鼻^{じせんじはな}を結節点とする元安川と本川を渡る東西2つの橋で、V字型をしていた。「銭取橋」と呼ばれ、明治27年(1894)に広島市に管理が移る前までは有料であった。大正元年(1912)に、現在の相生橋が架かる場所に路面電車の専用橋が架橋された。その後昭和7年(1932)に道路併用橋に架け替えられ、同9年には、慈仙寺鼻と新しい相生橋(道路・軌道併用橋)との間をつなぐ橋が架けられ、H字型の橋となった。その後、慈仙寺鼻を結節点として架かっていた東西の古い木造橋は昭和15年(1940)に取り払われ、それ以降は、現在のようなT字橋となった。



①

AIOI BRIDGE, HIROSHIMA.

相生橋鳥瞰

V字型をしていた明治末期頃の相生橋

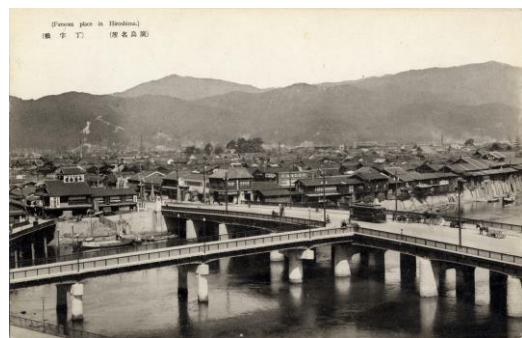
①北側から見た相生橋の風景。のちに広島県物産陳列館(広島県産業奨励館<のちの原爆ドーム>)が建設される辺りが、まだ護岸整備されていない様子が窺える。

②物産陳列館(産業奨励館)から撮った大正期頃の相生橋。左下に同館のレンガ壁の一部が見える。絵はがきの右端、現在の相生橋がある位置に路面電車の専用橋が架かっている。



②

戦前ノ相生橋ニ電車が通リ上ノ時河安元(島嶼)



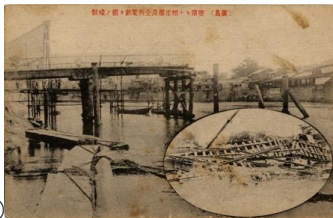
H字橋となった相生橋

慈仙寺鼻と新しい相生橋(道路・軌道併用橋)との間をつなぐ橋が架けられた昭和9年(1934)~10年代前半頃の様子。

ニュース媒体としての絵はがき

戦前の絵はがきの中には、観光地や名所・旧跡を紹介したものだけでなく、今日ではあまり考えられない事故・災害を写した絵はがきも数多く存在する。まだカメラが一般に広く普及していなかった時代において、絵はがきの一つのメディアであった。当館には、広島県に関する事故・災害を知らせた戦前の絵はがきも数多く残っている。

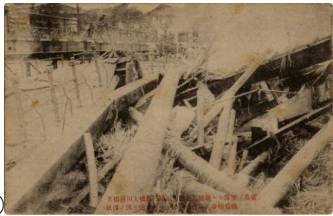
災害 太田川の氾濫（相生橋付近）



①



②



③

大正8年（1919）7月4日の広島市内の水害の様子を写した絵はがき。同月初めからの豪雨により、県内各河川ともに増水し、4日から5日にかけて氾濫。被害は全県域に及んだ。太田川下流域でも多くの橋梁が流され、甚大な被害を受けた。

①東相生橋を北側から見た状況。円内は路面電車専用橋の倒壊状況。②倒壊した東相生橋（手前）。③説明には「墜落セル新橋・元安橋・相生橋・三篠橋・太田川橋其他船舶等ノ万代橋ニ掛リタルヲ焼キ払フ惨状」とある。太田川下流の橋が軒並み流失した様子が窺える。

事故 安芸中野付近列車脱線転覆事故



大正15年（1926）9月23日に安芸中野～海田市間で発生した列車事故の様子を写した絵はがき。集中豪雨の影響で浮き上がっていた畑賀川橋梁付近の線路上を、当時日本最高級と言われた特急列車が通過し大惨事となった。列車には著名人も多数乗車しており、34人の犠牲者の中には、当時の鹿児島市長なども含まれていた。

絵はがきの検閲と作為

絵はがきが盛んに発行・流通するようになった明治末期～大正・昭和戦前期は、日本が軍国主義化する時期でもあり、出版物等にもその影響が少なからず見受けられる。絵はがきの場合、検閲による写真風景の作為が頻繁に行われている。とくに山岳地形は当時の軍事機密にあたるため、検閲による書き換えが指示された。軍港としての宇品や呉は、数多くの絵はがきが出回った反面、戦時体制のもとで作為が施されたものも多かったのである。



宇品港

宇品港を紹介する旅行記念絵はがき。上段が明治末期の学生旅行記念絵はがき。下段は比治山にあった広島湾要塞司令部が大正5年（1916）3月に認可した旅行記念絵はがき。船の配置から全く同じ風景を写したものであることが分かるが、背景の山の形が全く違う。下段の、要塞司令部認可絵はがきのほうが、地形を書き換えている。

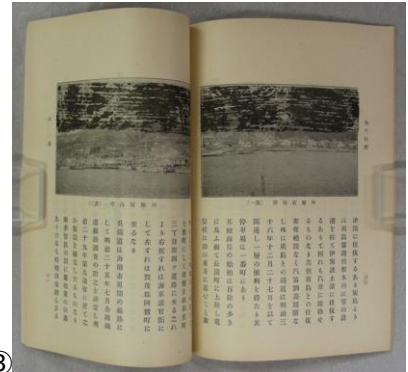
【参考】



①



②



③

呉の絵はがきと観光案内書の検閲記載

①②呉市中通り四ツ道路付近の様子を紹介した大正期頃の絵はがき。四ツ道路から北を見た風景で、本来は背後に呉の象徴ともいべき灰ヶ峰の姿が見えるはずであるが、白く消されている。呉の絵はがきは数多く発行されているが、このように背景を消されたものが目立って多い。

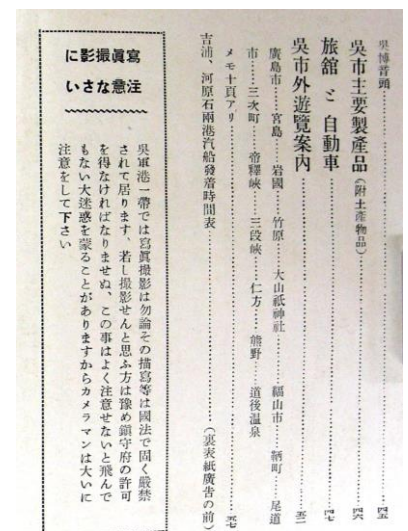
③『呉乃枝折』（長船友則氏収集資料 200407-686）

明治37年（1904）発行の呉の観光案内書。掲載された写真の山の部分を黒塗りしてある。当時は、このような処置を施すことが当然とされていた。

④『大呉市案内』（長船友則氏収集資料 200407-691）

昭和10年（1935）の国防と産業大博覧会の際に発行された観光案内書。目次の末尾に書かれた注意書きに、軍港呉における風景写真に対する考え方がよく表れている。「呉軍港一帯では写真撮影は勿論その描写等は国法で固く厳禁されて居ります。若し撮影せんと思ふ方は予め鎮守府の許可を得なければなりません。この事をよく注意せないと飛んでもない大迷惑を蒙ることがありますからカメラマンは大いに注意をして下さい。」

④



文書館収蔵絵はがきと関連資料について

広島県立文書館では、写真・絵はがき・地図などのデジタル化を進めており、長船友則氏収集資料に含まれる絵はがき約1,600点余、広島市街地図91点を含む広島県内の地図151点をデジタル化し、利用に供しています。これら絵はがき・地図は、それぞれ複写製本したものを閲覧室で見ることができます（『広島市 長船友則氏収集資料 絵葉書一覧』・『同 地図分割画像一覧（その1）・（その2）』）。また、長船友則氏収集資料以外にも、広島県内外の絵はがきを多く収蔵しており、その全体は、閲覧室備付けの『文書館収蔵資料データベース「絵葉書」検索結果リスト』に収録しています。

※ 本展は、平成24年度に開催した「収蔵文書の紹介」展のリバイバル展です。

平成29年度「収蔵文書の紹介」展（平成29年6月29日〈金曜日〉～9月16日〈土曜日〉）

広島市の歴史的風景 — 文書館収蔵の絵はがきから —

平成29年（2017）6月29日（改訂版） 広島県立文書館（担当：西向宏介）

〒730-0052 広島市中区千田町三丁目7-47

TEL (082) 245-8444 FAX (082) 245-4541 E-mail: monjokan@pref.hiroshima.lg.jp

展示絵はがき（文書番号）一覧

文書群番号

8905 = 久枝家文書 / 8807 = 八田家文書
9110 = 延藤家文書 / 9206 = 原田家文書
200011 = 村上弍資料 / 200307 = 広島築港百年史資料
200407 = 長船友則氏収集資料

広島 of 歴史的風景

市街地

大手町通 200407 - 1158・1160 橋本町 200407-1166
横町, 広島郵便局 200407 - 1162・1163・1164・1165・1172 広島本通の鈴蘭灯 200407 - 1173
広島新天地
日進館 200407 - 1543 - 10 新天地映画倶楽部（泰平館） 200407 - 1440・1441・1543（-4・18）
泰平館と紅桃花稲荷大明神 200407 - 1543 - 6 新天地食堂 200407 - 1543 - 12
新天座 200407 - 1543（-14・20） 劇場・新天座と日進館 8905 - 3 - 7
新天地内にあった紅桃花稲荷大明神 200407 - 1439・1445（-1）・1543（-8）
新天地西入口 200407 - 1543（-2） 『広島新天地』セット絵はがき 8905-3
比治山から見た市街地 200407 - 1340・1341・1342・1343・1344
戦前の宇品海岸通 200407 - 1171, 1607 戦前の宇品御幸通一丁目 200407 - 1581・1582・1607

河川と橋

太田川（本川）の風景 200307 - 298 - 52, 200407 - 1182・1185
大正期頃の元安川下流の賑わい 200407 - 1188 住吉の浜 200407 - 1186
元安川での夏の川遊びの風景 200407 - 1177 常盤橋 9110 - 4030 - 12, 200407 - 1127
京橋 9110 - 4030 - 11 猿猴橋 200407 - 1234・1235・1236・1237 柳橋 200407 - 1128
鶴見橋から比治山公園遠望 200407 - 1178・1346 御幸橋 200407 - 1189・1190・1191・1194・1195・1197
元安橋 200407 - 1239・1240・1241・1244・1246・1247・1248・1249・1250・1251・1252
本川橋 200307 - 298 - 27, 200407 - 1255・1259, 1260 住吉橋 200407 - 1130

名所・旧跡等

広島大本営 200407 - 1408 昭憲皇太后御座所 200407 - 1395・1419
大本営跡前の噴水池 200407 - 1412・1415 大本営の金屏風 9206 - 81
比治山旧御便殿 200407 - 1352・1354 旧御便殿の大鳥居と石燈籠 200307 - 298 - 26, 200407 - 1357・1361
比治山公園 200407 - 1349・1350 広島国泰寺 200407 - 1114
安国寺不動院 200011 - D - 19, 200407 - 1116 広島別院 200407 - 1113
明星院二王門（仁王門） 200407 - 1079 饒津神社 200407 - 1437・1479・1480・1481・1483
鶴羽根神社 200407 - 1468 広島東照宮 200407 - 1487・1488・1490・1492
広島東照宮の桜並木 200407 - 1485 宇品凱旋記念碑 200407 - 1462
北京料理料亭・香蘭 200407 - 1181 料亭・大華楼 200407 - 1509（-2・3・5・6）
羽田別荘 200407 - 1525（-1・2・3・4・5） 天城旅館 9206 - 143（-1・2・3・6・8・9・11）

海と港

宇品港 200307 - 298 - 3, 200407 - 1267・1279・1581 市営棧橋 200407 - 1266・1271・1272・1275
江波港 200407 - 1187 江波公園 200407 - 1368 井口・小己斐明神 200407 - 1101・1102・1103
五日市海水浴場 8807 - 6970（-8・12・25）, 200407 - 1287・1288・1289（-1・2・4）
地御前海水浴場 200407 - 1560・1564・1565・1567・1568・1569
廿日市海岸（住吉神社） 200011 - D - 61 阿品・火立岩 200407 - 1561

時の経過を写す絵はがき

戦前の広島城天守閣 9206 - 48, 200407 - 1380・1381・1383 広島城天守閣周辺 200407 - 1418
相生橋の変遷
V字型をしていた明治末期頃の相生橋 200407 - 1117・1119・1120
H字橋となった相生橋 200407 - 1123

ニュース媒体としての絵はがき

太田川の氾濫 9206 - 34・36, 200407 - 1545（-2・3・4・7・8）
安芸中野付近列車脱線転覆事故 9110 - 624（-179・181）・627（-13）・4127（-2）

絵はがきの検閲と作為

宇品港 200307 - 298 - 4, 200407 - 1263・1281・1282・1285（-1）1582（-5・7・8）
呉の絵はがきと観光案内書の検閲記載 200407 - 1709（-5）・1710（-7）